

令和5年度第2回国分寺市地域福祉推進協議会

日時：令和6年2月21日（水）

午後2時～午後3時30分

会場：リオンホール（cocobunji WEST 5階）

出席委員 36人

【事務局】地域共生推進課長（新井），地域共生推進課重層的支援体制整備担当係長（渡部），
地域共生推進課職員（米田，大坂，松井）

次第

1 開会挨拶

2 国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動の振り返り等について

3 取組の紹介

🚩 「もとまち地域会議」がまちをつないでいく

- ・もとまち公民館「もとまち地域会議」世話人代表 田中 英郎 氏
- ・もとまち公民館長 久保 祐司 氏
- ・特定非営利活動法人あおぞら 原 俊男 委員
- ・元町親交会 森下 和仁 委員
- ・国分寺地域包括支援センターもとまち 長谷川 雅子 委員
- ・労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団もとまち児童館 重水 はづき 委員
- ・国分寺市社会福祉協議会ボランティア活動センター 有馬 千佳 委員

4 グループワーク

🚩 キーワード自己紹介

🚩 「ワクワク・うれしい活動（つながり）」の共通点さがし

開会 午後2時

1 開会挨拶

事務局及び会長より開会挨拶を行い、記録作成のための写真撮影及び音声録音について説明した。

2 国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動の振り返り等について

事務局より、「令和5年度国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動情報・取組情報（年度末）」として、委員による活動の振り返りや次年度に向けた取組のまとめと、「新たな気づきや、つながりを得た取組」を説明した。併せて、国分寺市地域福祉計画実施計画（後期）ほか3計画に係る市の進捗状況評価報告書（令和4年度）」等を説明した。

また、地域福祉推進協議会は、分野を横断し、多彩で魅力的な委員の”生きた活動情報”を発信・共有・発見し、地域でつながる交流の場である。運営の工夫を図りながら、つながりを広げ、活発な交流を進めていくことを確認した。

3 取組の紹介 「もとまち地域会議」がまちをつないでいく

もとまち公民館「もとまち地域会議」田中世話人代表及びもとまち公民館長より、「もとまち地域会議」の概要を説明いただいた。また、同会議のメンバーである地域福祉推進協議会委員5人より、「もとまち地域会議」の魅力や、参加して得られる刺激と活動への良い影響などの報告があった。

【もとまち公民館「もとまち地域会議」世話人代表 田中 英郎 氏】

ただいま紹介を受けました「もとまち地域会議」世話人代表の田中と申します。よろしく申し上げます。もとまちの「地域会議」は、平成12年の学校5日制により、子どもの居場所として自治会とタイアップした本多公民館の異世代交流事業に影響を受けました。平成17年に第13期及び第14期のもとまち公民館運営審議会メンバー、もとまち公民館利用者有志の3つのグループより、「昨今、地域の結びつきがますます大切になっている。もとまち地域で生活し、活動する私たちも地域の問題を共有し、様々な場面で協力し合える関係をつくるため、「地域会議」を設けたい。」と地域へアピールし、地域の結びつきへの機運が生まれました。そして呼びかけに応えて、平成18年3月に第1回「もとまち地域会議」が発足しました。

活動内容は、子どもの安全、異世代交流、防災・防犯、ごみ処理などの環境問題を共有し、参加団体の課題なども情報交換・意見交換し、解決できる部分は解決していこうという会議です。平成19年からは、2か月に1回の定例会を行い、現在も奇数月年6回の定例会を開いています。また、会議だけではお互いに交流ができないだろうとのことで、協力してイベントをやることになりました。スポーツ分野を柱として平成20年に「ファミリー運動会」を実施、また文化分野として「もとまちをふるさとだと思えるまちづくり」を柱にイベントを検討するも、毎年実施するものでもなく、第3の柱として「防災シンポジウム」を平成27年に作り上げ、今は3本の柱で進めています。

会議は、世話人4～5人で運営し、毎回会議に参加してくれるメンバーで互選しています。以上、「もとまち地域会議」発足までの経過と、現在まで続く取組内容です。ありがとうございました。

【もとまち公民館長 久保 祐司 氏】

もとまち公民館の久保でございます。よろしくお願いたします。ほとんど田中世話人代表が、おっしゃっているとおりですが、平成18年から2か月に1回集まっています。主要メンバーは、地域の各代表が集まってくださっています。ちょうどその頃、役所では協働などの機運が高まった時期です。また地域でも、現役時代に社会運動に参加するなど、地域活動に積極的な方々に恵まれたからこそ、「地域会議」の取組がこれまで続いていると考えています。

何をやっているのかという話ですが、まずは情報共有を行っています。例えば、あおぞらさんと餅つきをやると聞いたが、実は、うちも餅つきをやりたい。顔が見える関係があれば、会議終了後などに、いろいろなかたちでつながることができる。公民館が児童館と組みたいときに、こういった会議の場も含めて、いろんな場所につながることができます。

また、先ほど世話人代表が話したとおり、情報共有だけでなくイベントもやっています。その一つが「防災シンポジウム」で、つい先日2月10日に開催しました。「地震から一週間、私たちはどうなるどうする」をテーマに、市主催ですと市全体の話になると思いますが、「地域会議」主催なので、防災安全課職員には、中央線より南側、武蔵野線から東側に絞って話してもらうことができます。定員40人のところ60人超の申し込みがあり、当日は66人が参加して大盛況でした。続いて「ファミリー運動会」です。コロナ前までは、一小の体育館を借りて実施しましたが、コロナ禍で休止になりました。コロナ禍の5年間で、支えてくれたグループがなくなったり活動を休止したり、皆さんのところも同じだと思いますが、地域も地域の力も、少なくとも弱まっている部分があります。そこをどうするかが課題です。世話人やメンバーの皆さんが主役で、公民館はあくまで事務局として、「もとまち地域会議」の充実した運営を目指していきます。

【特定非営利活動法人あおぞら 原 俊男 委員】

「もとまち地域会議」の世話人の一人であります。「NPO法人あおぞら」の原でございます。「もとまち地域会議」の魅力は、参加メンバーの団体、組織が多彩であることで、2か月に1回一堂に会して活動状況を情報共有しています。その結果として、「ファミリー運動会」や「防災シンポジウム」など、大きなイベントも開催しています。また、個々のつながりが生まれ、連携共催イベントも行われています。

「NPO法人あおぞら」が注力しております異世代交流に関して、お隣のもとまち児童館との共催イベントがあります。8月の「さわやか夏まつり」は、北側の道路を封鎖し歩行者天国にして模擬店を出し、シンデレラ行進、段ボール神輿や盆踊りを行います。11月23日勤労感謝の日は「餅つき大会」です。二つとも地元の祭りとして定着しつつあると感じています。高齢者から現役世代、そしてお子さんたちがうまくかみ合い、その効果として、他のイベントへの参加のきっかけとなっています。かつての公民館まつり「ふれあいまつりもとまち」は、公民館、図書館、児童館、さわやかプラザもとまちの4館の共催となり、たくさんの自主団体が参加してくださっています。

そして「もとまち地域会議」では、自治会・町内会との連携が進む大きなメリットを得ています。自治会・町内会から、事業の推進役である役員の推薦をいただいております。また、毎月発行する「あおぞらイベントニュース」の回覧や掲示などもご協力いただいております。まさに、つながりと絆がしっかり自治会・町内会とつながっています。

また、私は個人として自然保護の活動である「ホテルよ、もう一度の会」や「もとまち里山クラブ」などにも参加しています。「もとまち地域会議」は、国分寺市地域福祉推進協議会の言わば地域版であり、私たちにとってなくてはならない組織であると考えています。日常のご支援ご協力をご感謝いたしまして紹介とさせていただきます。

【元町親交会 森下 和仁 委員】

元町親交会という町内会の代表として参加しています。元町親交会は、東元町二丁目、三丁目、四丁目のごく一部、概ね135~145世帯の会員で構成する町内会です。町内会は、住民の必要なこと全般に対応しており、困りごとなどの解決にあたっています。この地域福祉推

進協議会と同様、顔が見えることで情報が裏打ちされ、信頼度が上がり、生きた情報となります。インターネットだとフェイクなどもありますが、この顔を変えて出てくるわけにもいきませんので、確かな情報と言えると思います。

事例紹介ですが、一小PTAから、真福寺児童遊園地（通称さんかく公園）について、子どもたちが帰りの時間を知りたいので、時計を設置してほしいという話がありました。街灯を所管する市の道路管理課に確認したところ、すぐにはできないという回答でした。思案していたところ、国分寺市社会福祉協議会より、公園に隣接しているボランティア活動センターこくぶんじ（ボラセン）の窓近くに壁掛け時計をつけてはどうかという提案をいただき、2階の窓に設置できました。このように結果が出せる団体として、期待しつつ参加しています。原委員からもお話のあった「ふれあいまつりもとまち」では、令和元年には私も実行委員として参加しました。実行委員である一小PTAの会長・副会長さんが当町会の会員家族でしたので、さらに親しみを感じながら取り組むことができました。また地域の防災として、市民防災推進委員会事務局での活動を共有しています。コロナの影響などで、小中学校の校長、副校長先生が、なかなか出席できない状況ではありますが、「もとまち地域会議」の重要性が増してきたと思います。雑白ではございますが、ご報告に代えさせていただきます。

【国分寺地域包括支援センターもとまち 長谷川 雅子 委員】

ご紹介いただきました国分寺地域包括支援センターもとまちな長谷川と申します。地域包括支援センターは市内に6か所あり、高齢者の方の総合相談窓口と位置づけられたセンターです。私が所属する地域包括支援センターもとまちは、東元町、西元町及び南町を担当しています。私は、一昨年より「もとまち地域会議」に参加し、皆さんの活動経験に比べてまだ日が浅いのですが、2か月に1回の定期会議には参加しています。参加して一番感じることは、準備も大変だと思うのですが、地域のお力があるキーパーソンの方がこれだけ参集する会議は、他にないのではないかと考えています。参加されている皆さんは、多くの活動しながら予定を空けて来られており、貴重な会議の一つだと思います。私が高齢者の相談窓口業務を行う中で、世代を超えた課題をお持ちの世帯が多くあります。ご家族にお孫さんなどがあるご家庭では、小学校の行事などから「運動会があったこと」などを伝えながら話を始めると打ち解けやすく、この会議で得た情報は日々の業務に活かしていると感じています。会議に参加すると明るいニュースが多いです。こんな取組があると発見があり、子どもたちの元気な様子を聞くと励みになりますので、とても有意義な会議だと思っています。以上です。

【労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 もとまち児童館 重水 はづき 委員】

ワーカーズコープのもとまち児童館館長の重水と申します。児童館は、指定管理制度で運営しており、ワーカーズコープになって11年目を迎えました。「もとまち地域会議」に参加した当初から、皆さん、本当に温かくて、一緒にやっといこうよという感じの空気やお声掛けをいただいています。先ほどからのお話で、「地域会議」が発足するまでの経緯などを改めて知ることができました。毎回の会議が終わった後の時間には、森下さんや世話人の皆さんから、「今度行事がある時は、サンタクロースをやるよ。」など、色々とお声掛けをいただきます。また、子どもたちを始め、地域のお母さんやお父さんのことを考えて、具体的に

動いてくださっており、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。もとまち地域で、地域の皆さんに温かく見守られながら、みんなが楽しく集う拠点の一つとして、児童館での取組を進めています。これからも、どうぞよろしく願いいたします。

【国分寺市社会福祉協議会ボランティア活動センター 有馬 千佳 委員】

国分寺市社協ボランティアセンターの有馬と申します。私たち社会福祉協議会が、「もとまち地域会議」に参加させていただいたきっかけは、平成19年に社会福祉協議会が策定した第2期国分寺市地域福祉活動計画「ここねっとプラン」です。もとまち公民館で、地域におけるコミュニティづくりを進め、横のつながりを作っていく「ここねっとプラン」を説明させていただいたとき、地域の横のつながりを進める「もとまち地域会議」がある、とお声掛けをいただきました。ボランティア活動センターは、森下さんがお話された真福寺児童遊園地（通称さんかく公園）の隣にあり、もとまち地域エリアにあります。私は、地域のことを知る上でとてもありがたい「もとまち地域会議」と、「もとまち公民館運営サポート会議」にも参加しています。もとまち公民館と地域の方が、もとまち地域ならではのまちのつながりを、ともに作り上げている、と日々感じています。「もとまち地域会議」には、現在、社協が担当している地域福祉コーディネーターが参加し、もとまち地域の情報を共有しています。

地域とつながりを持ちたい団体と一緒に会議に参加させていただくことがあります。東京経済大学のボランティアサークルが発足した当初、地域での活動として、「ファミリー運動会」のイベント内容を一緒に考え、参加させていただきました。とても大切なつながりを作る場であると感じています。会議に参加させていただき、ボラセンも社協としても、もとまち地域で活躍されている皆さんとつながることができました。「もとまち地域会議」は、小中学校PTAや自治会・町内会の方、児童館や公民館利用者の方など、参加者が多岐にわたり、公民館を起点として、横のつながりを広げています。もとまち地域にある社協ボラセンとして、今後とも勉強しながら参加させていただきたいと思います。以上です。

4 グループワーク

委員の主な活動エリアごと等に分かれ、「キーワード自己紹介と、「ワクワク・うれしい活動（つながり）」の共通点さがしについて、グループワークを行った。

（「ワクワク・うれしい」活動（つながり）について、全体共有）

- ・共通項は、人との交流です。出会い、いろいろな特徴や特技を知り合った後に、情報交換の場があるといい、という話が出ました。平時のときに顔が見えている、つながりがあれば、それが災害時にも活かせるのではないかという話がありました。ワクワクしたこと、これからしたいこととのつながりもあるように感じました。
- ・地域の中で、つながりと出会い、地域行事の大切さや行事の内容を伝え、受け継いでいく、地域の様々な活動を伝承していくことが必要。また、この1月の震災を受けて、地域とつながっていくことが大切だということ。人との出会いとつながりは大切ですが、今の時代、子ども

に声一つ掛けるのにも考えてしまい、難しいという話もありました。

- ・いろいろな活動の中で、「ありがとう」と感謝されることが多く、その「ありがとう」という言葉をエネルギーに活動しているという話がありました。そのためには、やはり相手の気持ちに寄り添うことが大事だという話がありました。次のつながりのところについては、小さい子たち、乳幼児たちからおじいちゃんおばあちゃん世代との交流ができたらいいなという話で終わりました。
- ・一つは、地域でも一人暮らしの方が増加し、空家の問題、孤立・孤独を感じている方ってまだまだ地域にたくさんいるということが皆さんの共通の課題でした。あと、地域で良い取組がいろいろ行われているので、それを地域にもっと広げていく必要があるのではないかという話がありました。あともう一つが、顔の見える関係性づくりということで、行事やお祭りを通して顔の見える関係性を作っていけたら良い、とのお話がありました。そういったすべてのことを総じてですが、引き続き行政の方たちと連携していけると良いとのお話がありました。

5 閉会

閉会 午後3時30分